



拠点運営での取組報告

よりなん

2025.1.25 市民活動エキスポ

- 総来場者数 478名
- 協働先
上地学区総代会、福岡消防団(岡崎市消防本部)、
上地六区六寿会、市民活動エキスポ実行委員会
- 地縁団体・市民活動団体・事業者が協働し、各々の立場から地域課題の共有や情報交換等を行い、市民に広げるためのイベントを開催。参加者は楽しみながら体験し、市民活動に触れる機会となりました。2団体からメンバー増加に繋がったと報告がありました。
- 団体はブース出展を通して活動を発信するだけでなく、団体間の協働にも繋がりました。一例として四字熟語を使った脳トレを行う団体と、防災に関わる団体が「防災用語かるた」作成を希望し、今後進めていく予定です。



むらさきかん

2025.1.25 市民活動サポート研修 IT利活用研修

- 総来場者数 34名
- 協働先
岡崎市視聴覚ライブラリー、岡崎市立東海中学校PTA
- 市民活動団体の活動促進のため、インターネットやSNS等のIT利活用のメリットと危険性を正しく理解し、情報発信や情報取得時に安全に活用するための情報モラルとリテラシーの意識向上に繋げる機会を提供しました。
- IT活用を進めたい反面、安全安心に活用できるか不安を感じている参加者に向け、具体例をおり込みながらイメージしやすい内容やスマホを用いたリアルタイムアンケートを実践しました。また生成AIの説明や活用方法もレクチャーし、市民活動団体の他、地域の福祉委員等多様な主体から好評を得ました。



ご挨拶

4月から事務局長を務めさせていただいている中村です。皆さんよろしくお願いします。

現在、りたでは5つの「地域交流センター」とりぶら内の「市民活動センター」の計6つの市民活動・地域活動の拠点運営を通じて、「担い手が不足している地域」と「新しい地域の担い手」をつないで、地域の活力を高めるお手伝いをしています。また、りたの強みでもある市民と行政とを結ぶファシリテーション事業や多様な主体と協働して進めるまち育てに向けて、進め方やネットワーク形成に関するアドバイスや支援を行っています。

私個人も地域や学区の活動に関わりながら地域での活動の大切さを感じる一方、地域での活動の担い手不足をつくづく感じている一人でもあります。地域とのつながりや地域との関わりが希薄になっている時代だからこそ、りたの活動が皆さんのお役に立てればと考えています。まちづくりは人づくりからと言われるように、地域の方々との活動を通じ、りた自身も育てていただければと思っています。



お問合せ		よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114
なごみん	66-8251	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

まちのミカタ

Litaracy

2025.5 vol.133

発行・編集



特定非営利活動法人
岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888 / FAX(0564)23-2898
<http://www.okazaki-lita.com/>
<https://www.facebook.com/okazaki.lita/>

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／
FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／松應寺／cafeくらがり／

まちのミカタ

Litaracy

ーりたらしいー

133

2025年5月



特集

カーボンニュートラルに向けて 身近な気づきから行動を変える

岡崎市は、2030年度までにCO2排出量の50%削減、2050年度までにはCO2排出量を実質ゼロ、すなわちカーボンニュートラルとなるゼロカーボンシティの実現を目指しています。

たとえば、中央クリーンセンターおよび八帖クリーンセンターで発電される電気を岡崎市の公共施設を中心に供給している【株式会社岡崎さくら電力】や、自転車をシェアする【ハローサイクリング】など、再生可能エネルギーの活用や身近な生活の中での行動変容を促し、

CO2の排出を抑える取組が広がってきています。

そんな中、りたは2023年度より、岡崎市環境部ゼロカーボンシティ推進課と共に「カーボンニュートラル人材育成事業」に取り組んでいます。

今号では、次世代を担う子どもたちが環境意識を高めたり、環境問題に関する知識を深めたりするだけでなく、具体的な行動や思考を身に付け、実践していく人材の育成を図るために企画・作成した体験型環境プログラムについてご紹介します。

カーボンニュートラルに向けて 身近な気づきから行動を変える

地域特性を踏まえた講座プログラムづくり

カーボンニュートラルの実現に向けて、これからはモノを選ぶ際の基準として、価格や味、用途やデザインだけでなく、どれだけCO₂を出しているかという視点が大切になってきます。そこで、小中学生向けに、身近な「水」「ファッション」を題材にした講座プログラムを作成しました。なお、テーマ選定やCO₂排出量の計測など、グリーンフロント研究所株式会社の協力を得て企画を進めました。

■「水」「ファッション」というテーマに関係する岡崎市の地域特性

「水」

岡崎市には、ほぼすべての流域が市域に含まれる乙川や、その本流・矢作川が流れていることから、岡崎市が自前で調達できる水の割合(自己水率)が周辺自治体と比べて高い。

「ファッション」

岡崎市では、明治から昭和にかけて、紡績・繊維産業が盛んだったが、現在でも使用済の衣料などから繊維を再生・リサイクルする反毛(はんもう)事業者が多く存在している。



Litaracy126で紹介したように「高校生まちづくりプロジェクト」の協力を経て、講座プログラムを試験的に実施し、時間配分や言い回し、受講者の反応などを踏まえたうえで、教材を改善。より理解しやすいものに仕上げていきました。

気づきを行動変容につなげる出前講座



5月15日(水)、岡崎市立北野小学校の5年生の1クラスを対象に「水」編の出前講座を実施しました。「地球温暖化」や「カーボンニュートラル」という言葉をなんとなく聞いたことはあるものの、具体的な内容まではよくわからないという生徒が多い中、まずは、岡崎市の水道水、国産ミネラルウォーター、外国産ミネラルウォーターの飲み比べ体験からスタートしました。どの水がおいしかったかという問いに対して、半数程度の生徒が水道水を選んでいたので、印象的でした。

続いて、地球温暖化についての基礎知識や、水道水および市販の飲料が製造される過程でどのようにCO₂が排出されるのかを学び、自分が1日に摂取している飲料が、容器の製造や輸送を含めCO₂をどれだけ排出しているかを計算しました。水道水はCO₂排出量をもっとも少なく、ペットボトルなどの容器をつくったり輸送距離が増えたりすると、その分排出量が多くなります。具体的に数値を比べることで、「味」や「価格」だけでなく、「CO₂排出量」も商品やサービスを選ぶ際の判断基準になるという学びを提供することができました。

講座の最後に実施した「アクション宣言」では、明日から自分でできるCO₂排出量削減のためのアクションを真剣に考える生徒たちの姿が見られました。

行政・市民・企業一丸で脱炭素実現へ

講座プログラムを作成していく中で、市内にカーボンニュートラルに資する活動を行っている企業が多数存在することがわかりました。そこで市内在住・在学の高校生有志でそうした企業を取材するライターチーム「CO₂バスターズ」を結成しました(Litaracy132参照)。執筆された記事は追ってご紹介します。

りたは今後も、子どもたちや若者、企業や市民団体と行政が協働し、一丸となってカーボンニュートラルを達成する土壌づくりに尽力していきます。



大切なお店を守る“推し活”のすすめ

●予想外、閉店セールでの店主のコメント

タ方のある情報番組で、地域で愛された老舗の駄菓子屋さんが閉店する様子が取り上げられていました。そのお店の閉店セールには、別れを惜しむお客さんが連日長蛇の列を作っており、店主が感謝を述べるハートフルな展開になるかと思いきや…店主は、感謝を述べつつも「この行列のうち10人ずつでも日頃から来てくれていれば、もっと続けられたかもしれない…」と今更来てくれても遅いんだと悔しさを隠しませんでした。私はこのコメントに、核心を突いていると感心すると同時にはっとさせられました。

話は変わり、私は山間地域が好きでぷらっと出かけるのですが、どうやって経営が成り立っているんだろうというお店に出会うことがあります。そのような工芸品や漬物が売っているお店に立ち寄っては“雰囲気いいなあ、好きだなあ”と思いつつ、店内で買い物はせず、外の自販機でコーヒーを買うのが慣例になっていました。思い返すと、好きなだけで何も買わない私は“お客”になっていなかったと気づかされました。

●好きなお店を守るキーワードは“推し活”!?

一昔前まではオタクの人が好きなアイドルやキャラクターのグッズを買うことを指していた“推し活”という言葉も、今では好きなものを応援するという表現に置き換わってポジティブなものと認識されるようになりました。

皆さんは自分の好きなものやお店(＝推し)にお金を使っていますか？お客さんの立場でできることは少ないかもしれませんが、地道にこつこつそこを使う(お金を落とす)ことが推しの支えになるということだけは間違いないでしょう。その商品がいるか・いらないかよりも、続いてほしいかどうかを1番の判断基準に行動することこそが“推し活”と言えるのかもしれません。残念ながら推しが活動をやめるのはいつだって突然なのです…



▲のどかな景色を見ながら食べられる田舎観音の五平餅(私史上1位のおしさ。でも、のどかすぎて存続が心配…)

りた's Eye

地域の個人商店に焦点をあててみます。大型店舗やネットショップと比較しても劣らない個人店ならではの雰囲気や工夫、匠の技など、光るものを持っているお店が数多くあります。

一方で老舗の商店は、後継者不足や設備老朽化などで継続の危機にあります。これらのお店存続のためには、好きでいる気持ちに加えて、商品を購入したり口コミでPRしたりなど、お店の利益につながる“推し活”で支えることが大切ともいえるでしょう。

母の運転免許証の自主返納で思うこと

昨年、78歳の母が運転免許証を自主返納しました。高齢ドライバーの運転ミスによる事故のニュースを聞いた時に心配していたので、家族みんながほっと安心しました。日常生活で車を使う事が多くあり、運転免許証を手放すことに不安を感じる高齢者も少なくありません。岡崎市では、運転免許証を自主返納した高齢者に対して「運転経歴証明書」を発行し、これを提示することで割引などの優遇措置を受けられる制度を導入しています。また、コミュニティバスの無料券などの支援を行っている市町村もあるようです。

高齢者による自動車事故を減らすためには、運転をしないように促すことが重要ですが、代替案を提示することも必要です。例えば、電動アシスト自転車やシニアカー、公共交通機関の利用、タクシーや介護タクシーなどが考えられます。これらの代替手段を提供することで、高齢者が安心して外出できる環境を整えられると良いです。家族や地域社会が協力して、高齢者の安全な移動を支援することが大切だと改めて思いました。



阪口奈央(むらさきかんセンター長)

母の代替手段は歩くことです！買い物や病院、美容室も日常に必要なことはほとんど一人で歩いて行ってます。健康的でなによりです。唯一、送迎が必要なのは月に2回の父のお墓参りで、一緒に仏花を買いに行ってお寺に向かい、帰りにお昼を食べて帰るのが定番のコースです。これからも健康で、歩き続けて欲しいと思います！

